

クルリンと ほしぞらさんぽ 5月号



ほしぞらさんぽ、やってみましたか？

よく言われることわざ「好きこそものの上手なれ」は月や星のお勉強にも当てはまります。一度だけでわかってしまうなど無理な話、でもほしぞらさんぽを続けていると、自然に理解できて覚えてしまうことが多いものです。安全に気を配りながら、ぜひほしぞらさんぽをくり返して、好きになりましょう。

星空を知るための手順

手順(1) 代表的な星座を知ろう

「星座を覚えるには星座早見盤」と思っている人が多いのですが、それはまちがいです。

まず星座を教えてくれる児童書を1冊見つけましょう。学校の図書室でも市立図書館の児童コーナーでも、必ず何冊も見つかります。その中の読みやすそうな1冊を選びます。四季に分けて説明してあるのがいいですね。自分で選ぶことが大事です。まず「春」の本を借りて、春の星座名とおおまかな星の並び方、明るい星々の名前などをメモします。

手順(2) 星座早見盤を使いこなそう

星座早見盤の使い方のポイントは4つ。

① 日にちと時刻を合わせる。

24時制で言えない人には早見盤は使えませんよ。ちょっとテストしてみましょうか。

午後7時は24時制だと何時ですか？

24時制では午後の時刻にするには12を足せばいいのですから、 $7 + 12 = 19$ で、午後7時は24時制

で19時です。下の図では5月17日の20時（つまり午後8時）になっています。

② 自分が立っている場所の北・南がわからないと次の③ができないので、必ず方位磁石で確かめましょう。スマホの方位磁石で大丈夫。

方位磁石は本当の北よりも7°西（左）を差しますので、方位磁石の北より7°東が真北です。これは地球の自転軸と地球磁場の北極がずれているため。

③ 大事なのは早見盤の持ち方

南の空の星を探す時は、早見盤の「南」の文字を親指でおさえて、頭上にかざして盤面を見上げます。北の星を探す時は「北」の文字を親指でおさえて頭上にかざして見ます。早見盤を下において見るのはまちがいです。

④ 普通のライトでは明るすぎて星が見えなくなってしまうので、100均の小さいライトに赤い折り紙をかぶせて暗くしましょう。

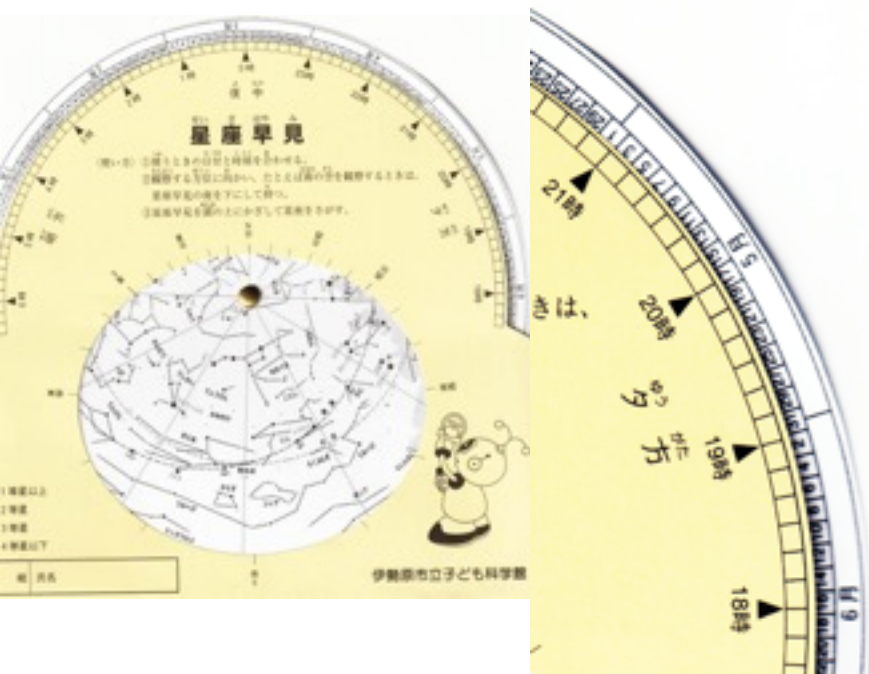
手順(3) メモしておいた春の星を探そう

まわりが暗くても赤いライトがあればメモを見ることが出来ますね。メモがどれだけくわしく書いているかで、実際に見える星の数がちがってしまいますよ。現場に本を持ち込むよりも、メモを持って行く方がもっとよく分かります。

春の星空はさびしい

春の星座は冬の星座よりずっと探しにくいものです。それは伊勢原の夜空が明るいためですが、なぜちがうのでしょうか？

答えは… 春の星空には1等星が3つしかありません。さらにそれぞれの星座には明るい星（2等星や3等星）がうんと少ないため、星座の形をたどるのに苦労してしまうからです。



前ページで説明した「星空を知る手順」をきちんとたどれば主な星は見つかるはずですし、あなた方の若い目ならば、しし座、おとめ座、うしかい座は見つかるでしょう。北斗七星もかんたんに見つかると思います

主な星というと… 午後9時までのほしぞらさんぽで見えている明るい星は、① 東の空にうしかい座のアルクトゥルス、② 南東におとめ座のスピカ、③ 天頂から西にしし座のレグルス、ですね。

伊勢原の空では見にくいのですが、からす座、おおぐま座（その一部が北斗七星）もよく知られています。かんむり座は倍率の低い双眼鏡があると見つけやすいでしょう。

かに座もよく知られていて、かに座の中央にある散開星団（星の兄弟たちが集まっている集団）プレセペは、双眼鏡で見たり写真に撮ったりするとききれいなのですが、伊勢原の明るい空ではかに座を見つけるのは難しいでしょう。

そのほかにも

▶ 5月第1週、夕方の西の空低く、水星が見えるはず、日没後すぐ、双眼鏡で探そう

▶ 5/6（金） みずがめ座流星群

月明かりがなく、夜おそくなるほど可能性が大、東の空に注目だけど全天のどこに流れるかわからないのが流星群

▶ ISS 国際宇宙ステーションが見えるかも

5/13（金） 8:41ごろ 北西→北の空

5/14（土） 7:51ごろ 南→南東の空

